

令和5年度 江戸川区立西一之江小学校 学校関係者評価 最終評価報告書

学校教育目標	よく考えずんで学ぶ子 思いやりのある子 ねばり強くたくましい子	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	子供たちが、「今日は一日楽しかった。また、明日が楽しみだ。」と思える学校。 教職員も子供たちと共に学び、自らも成長していける学校。 ・明るい学校 ・楽しい学校 ・魅力ある学校
前年度までの学校経営上の成果と課題	<成果>・コロナ禍においても学校行事を工夫して行うことができた。 ・一人一台端末を取り入れた授業を取り入れた。 <課題>・一人一台端末のより効果的な活用方法を考えていく必要がある。 ・学力(主に算数)の底上げを図る必要がある。		

教育委員会重点課題	<取組項目>・評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価		学校関係者評価		年度末に向けた改善策	
				取組	成果	成果と課題	評価		コメント
学力の向上	<学力の向上> ・授業改善の推進、学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対する学校の組織的な対応による取組の実施・充実	・高学年において、学年の実態に応じた教科担任制の実施 ・江戸川っ子study weekの取り組み内容を学校と家庭で共有 ・3年生での辞書引き学習の実施	・東京ベーンシッドドリル診断テストで、年度末各学年共に10P向上 ・全ての児童のドリルパーク実施 ・3年生全員が国語辞典の引き方を習得 ・全国学力調査児童質問紙の「国語の授業内容はよくわかる」「算数の授業内容はよくわかる」の肯定的回答割合85%以上	A	B	・江戸川っ子study weekを中心に全校でドリルパークを活用した。 ・3年生の辞書引き学習を行った。	B	・2学期時点では、算数の良く分かるが90%と目標の85%をクリアした。国語については70%ともう一歩だった。学校の努力は認められる。	・現在の取り組みを引き続き行いつつ、漢字の定着を図る。 ・ドリルパークで国語の問題に取り組む。
	<読書科の更なる充実> ・読書を通じた探究的な学習の実施・充実	・読書科における探求的な学習の充実 ・図書室整美活動の実施 ・読み聞かせや図書委員会による活動の実施 ・朝読書の実施	・自ら課題を見出し、図鑑や資料を使って探求する活動を年3回以上実施 ・読書意欲の向上 ・週1回の朝読書の実施	A	B	・図鑑や資料、インターネットを使っての学習を年間3回以上実施した。 ・毎週水曜日に朝読書を実施した。	A	・図書室はいつも整備されており、書籍の整理状況も良好である。読書をする環境は十分整えられている。「本はともだち隊」による読み聞かせも定期的に実施できた。 基本的な読み書きに力を入れていることが良い。	・図書室の活用は引き続き行う、図書委員会の活動等や本はともだち隊の活動を遠し、整備をしていく。 ・資料を使った調べ活動を行う。
体力の向上	<運動意欲や基礎体力の向上> ・運動意欲の向上や健康の推進に向けた取組の実施・改善・充実	・朝の時間を活用しての「元気タイム」の実施 ・「体力テストがんばろう月間」の実施	・体力テスト全種目において、昨年度の記録を上回る	B	A	・51の項目において記録の伸びが見られた。 ・シャトルランの記録には課題が残った。	B	・体育科学習発表会では、練習の成果を発揮できた。「元気タイム」等、工夫した取り組みを実施している。体力テストでは、概ね前年度の結果を上回っている。 コロナで体力が落ちているので、力を入れてほしい。	・体育の時間で、準備運動のあとに、短なわや持久走などの運動を取り入れる。
共生社会の実現に向けた教育の推進	<特別支援教育の推進> ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副都交流、交流及び共同学習の実施・充実	・特別支援教育や特別支援教室について、巡回指導教員、SC、心理士などによる研修会の実施	・特別支援教育の十分な理解 ・特別支援体制の充実	A	A	・研修会の開催により、特別支援教育、本校の体制を周知できた。	B	・研修会の実施、巡回指導員・特別支援コーディネーターとの連携強化等、積極的に取り組んでいる。	・来年度も研修会を行い、理解を深めていく。
子どもたちの健全育成	<子どもたちの健全育成に向けた取組> ・不登校対策の実施・充実 ・教育相談の強化 ・hyper-QUの活用	・hyper-QUやアンケートの実施 ・いじめアンケートの実施 ・なかよしポストの設置	・学級の実態の把握 ・一人一人の声に耳を傾けることによるいじめ・不登校の未然防止 ・毎月第4週に「人権週間」として取り組む	A	A	・hyper-QUを活用した研修会を実施した。結果の見方や今後の方策について考えることができた。 ・毎月の人権週間に取り組んだ。	A	いじめ等の情報は入ってきかない。「hyper-QU」では、学究生活満足群で良い結果となっている。また、学校評議員会での学校側からの聞き取りにより、いじめ問題に対する意識の強さを伺った。 親を含めた話し合い、町会を含めた協力を。	・月一回のいじめ対策委員会を行うようにする。 ・hyper-QUの研修会は来年度も行う。
地域に広く開かれた学校(園)の実現	<自校(園)の取組の積極的な発信> ・学校(園)ホームページの充実等 ・学校(園)公開の実施・充実	・実施状況を分かりやすくするため、取組の状況を学校ホームページに掲載	・全項目でのB評価以上	A	A	・行事等、タイムリーにホームページの更新ができた。	A	・3学期についても、書初め大会、読み聞かせ、おもちやランド、社会科見学等、いろいろな行事や学校生活の様子が、丁寧に遅滞なく掲載されている。 朝の挨拶に協力している町会員にも学校公開をしてほしい。	・ホームページ作成の担当を増やし、分担して記事を更新できるようにする。
	<学校関係者評価の充実> ・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	・実施状況を分かりやすくするため、取組の状況を学校ホームページに掲載	・全項目でのB評価以上	A	A	・ホームページへの掲載を行った。	A	・学校評議員会において十分な説明があり、意見交換を行った。学校評議員の意見も前向きに聞く姿勢が良い。 現状では先生方が大変であろうが、頑張ってもらいたい。	・引き続き、学校評議員に意見をもらえるようにする。
	<鼓笛隊> ・鼓笛隊の取り組み	・中央地域まつりや一之江ふるさと祭りへの参加 ・校内での鼓笛隊発表の機会	・6年生児童の自己評価肯定的意見80%以上	A	A	・今年度は二つのまつりに参加でき、90%程度の児童が達成感や満足感を感じていた。	A	・コロナにより鼓笛の練習も十分とは言えない中、よくできていた。まつり時間の簡素化も検討した方がよいかも。	・地域の活動、校内での発表を続けていく。
特色ある教育の展開	<俳句作り> ・豊かな感性と表現力の伸長 ・日本文化理解 <カブトムシ小屋> ・環境教育(ESD)・SDG'sの推進 ・生き物を大切にする心身の育成	・校内及び地域施設への掲示 ・各種コンクールへの参加 ・カブトムシの飼育・観察	・季節ごとに全児童による取り組み	A	A	・毎学期、季節ごとに俳句作りを行った。 ・各種コンクールへの参加もできた。	A	・子供たちの感性を育む手段の一つとして、有効である。	・クラス代表に選ばれることを価値付け、意欲を高められるようにする。
				A	B	・カブトムシの数が激減してしまい、一人1匹の飼育ができなかった。	A	・温暖化も進んでいるので、力を入れて教えてほしい。	・新しいカブトムシを入れ、多くのカブトムシが育つようにしていく。